

千葉県建築文化賞

第17回表彰作品集



2010年

主催：千葉県 共催：社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

平成22年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、居住環境や建築文化に対する県民の意識を高め、潤いと安らぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的として平成6年度に創設されたものです。

第17回目となる今年度は71点の応募があり、千葉県建築文化賞選考委員会の厳正な審査により、建築文化賞4点及び建築文化奨励賞3点が選定されました。

授賞作品は、いずれも景観形成や建築文化向上につながるとともに、千葉の魅力を高め、地域の活性化にも貢献する素晴らしい作品です。これらの建築物が地域社会の中で親しまれ、より良いまちづくりの推進に貢献するものと期待しております。

県では、平成22年3月に県政運営の基本となる総合計画「輝け!ちば元気プラン」を策定し、「くらし満足度日本一」の基本理念のもと、県民の皆様が、日本で一番暮らしやすいと感じ、「千葉で生まれ、住み、働けてよかった」と誇りに思っただけの千葉県を目指し、各種施策や取り組みを着実に効果的に推進しているところです。

今後とも千葉県建築文化賞表彰制度をはじめ、諸施策を通じ、次の世代に向けてより一層光り輝く千葉県を築いてまいりますので、県民の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、選考委員をはじめ、関係団体の方々の御協力に感謝申し上げるとともに、受賞者の皆様の今後ますますの御活躍をお祈りしまして、あいさついたします。

平成23年3月

目 次

千葉県建築文化賞について	1	コルテ松波	7
第17回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	マザー牧場 まきばトイレ	7
東光電気工事株式会社市川センター	3	千葉大学工学部10号棟トイレ改修 “スケールを身につける”1:1トイレ	8
新日本製鐵君津製鐵所本館	4	千葉県建築文化賞の選考の基準	8
日本貨物航空株式会社ライン整備ハンガー	5	千葉県建築文化賞の選考の実績	9
竹中技術研究所・耐火実験棟	6	受賞作品の位置	10

第17回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募71点から7点入賞

(選考経過)

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

第17回千葉県建築文化賞は平成22年7月の委員会で募集要領を定め、8月上旬から9月中旬まで応募を受け付け、総数71点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)点数は昨年より3点増加した。依然として厳しい経済情勢の中で、千葉県における建築文化を守り育てている関係者の努力に敬意を表したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門5点、ユニバーサルデザイン部門3点、環境部門3点を選んだ。次いで10月下旬から11月中旬の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回は選考の公明性を保つため、委員と関係のある建築物が応募されている場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、建築文化賞4点、建築文化奨励賞3点を表彰候補作品として決定した。結果的に、建築文化賞4点はいずれも規模の大きな建築物となった。委員会としては、規模の小さなものも積極的に評価したいと考えている。今回も応募作品には魅力的な住宅が多くあったが、票が割れたこともあり、建築文化賞には入らなかった。次回以降の応募にさらに期待したい。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観上優れた建築物		49	5	2	1
ユニバーサルデザインに配慮した建築物		7	3	—	2
環境に配慮した建築物		15	3	2	—
合 計		71	11	4	3

(総 評)

景観上優れた建築物

景観部門への応募は49点で、昨年度より11点多かった。各種の建築物の他、街並みも新旧7点の応募があったが、今回は残念ながら授賞に至らなかった。

建築文化賞の「東光電気工事株式会社市川センター」は、研修所と社員寮でコの字形に囲まれた中庭を街路に向かって開き、地域の人びとに共有される四季折々の彩りを提供している点が高く評価された。

「新日本製鐵君津製鐵所本館」は、企業のアイデンティティである鉄をデザインと素材の両面に活かし、「大地に浮いたスチール・インゴット」をイメージした力強い形態を実現している。

奨励賞の「コルテ松波」は、築17年のワンルーム集合住宅を改修したものだが、1階に共用スペースを設け、まちに開いたコミュニティの場として活用されている点が評価された。

ユニバーサルデザインに 配慮した建築物

この部門への応募は7点であり、昨年の12点を大きく下回った。残念ながら今回は建築文化賞の該当作品がなく、奨励賞2点となったが、いずれもトイレであり、はからずも国体開催にあたって県が力を入れた“トイレ美化おもてなし宣言”の趣旨に合致した結果となった。

「マザー牧場 まきばトイレ」は、障害者対応だけでなく、男女双方の乳幼児連れ利用を想定した使いやすいついトイレをシンプルで美しい形態の中に収めている。

「千葉大学工学部10号棟トイレ改修 “スケールを身につける”1:1トイレ」は、建築学科学生へのデザインによる既存トイレの改修であり、壁や床に表示された寸法がユニバーサルデザインの実地教材にもなっている。

環境に配慮した建築物

この部門の応募は15点であり、住宅・公共施設にも省資源・省エネに工夫をこらした興味深い作品が見られたが、授賞は次の建築文化賞2点となった。

「日本貨物航空(株)ライン整備ハンガー」は、ジャンボ機を収容する巨大な整備格納庫の外壁にポリカーボネートを用いるなど、シンプルな手法によって省エネを図っている点が高く評価された。

「竹中技術研究所・耐火実験棟」は、ゼネコンの耐火実験施設であり、耐火炉が生むドラフト気流を利用した自然換気をはじめ、各種の実験的な環境配慮技術を端正なデザインにまとめている。

建築文化賞

景観上優れた建築物

景観・防災・技術教育などの地域貢献

建築主：東光電気工事株式会社

設計：鹿島建設株式会社一級建築士事務所

施工：鹿島・大林共同企業体

所在地：市川市新田4丁目18-16

東光電気工事株式会社市川センター



街をやさしく照らすライティングデザインと開かれた中庭

市川駅東側から南に続くメイン道路の商店街と住宅街が混在する一角に建つ、社員寮と研修施設である。

敷地南側に地上10階建ての社員寮棟、中庭を挟み北側に2階建ての研修棟が配置されている。中庭を広く前面道路に面し確保することにより街に開かれた配置形状となっているため建物の圧迫感はない。沿道に開放された中庭は施設各部から見通せる憩いの空間となっており、各々個性のある木々の緑が季節毎に葉の色を変え、花を咲かせ、沿道を行く人々の安らぎとなり、来訪者を優しく受けとめる。研修棟の中庭開口面は全面開口となっており植栽した木々が成長と共に空間に広がり利用する人々に安らぎを与えるだろう。施設利用者の憩いの場である中庭は市民に開放されており歩行者が自由に立ち寄ることができる。また緊急車両停止場、消防水利や雨水貯水槽などの地域防災機能も備え地域貢献を念頭に建設されたことは街に安心と安らぎを与え、これからの市街地に建つ建物の指針になる。前面道路は両側の歩道を含み9.50mの広い道路であり

多くの市民が往来する。駅や商店街から少し離れた周辺は、街の灯りが少なくなり、近くにある幼稚園、小学校の生徒や女性は夜間暗くなり不安感を持つ。社員寮棟の中庭に面する外廊下照明は、外部手摺の腰壁を乳白色のガラスとすることで光を軟らかく拡散させ建物全体を行灯化した。建物の存在が行灯となることで地域住民の安全・安心につながっている。

道路に面する花壇もセットバックして造られており、建物の配置と共に圧迫感が無く、余裕を感じさせ街の景観に配慮している。（青柳英俊）



中庭より研修棟を見る



アプローチ

（撮影/木田勝久）

建築主：新日本製鐵株式會社君津製鐵所
 設計：株式会社竹中工務店
 施工：株式会社竹中工務店
 所在地：木更津市築地1番1

大地に浮いたスチール・インゴット

新日本製鐵君津製鐵所本館



鉄の輝線スペクトルパターンをオーバーラップさせたファサード※

1200haに広がる君津製鐵所は、高炉3基を有し、同社3主力製鐵所のひとつである。首都東京に近いこともあって、国内外から多くの来訪者を受け、対外的な窓になっている。その新しい顔として、かつての製鐵所管理・迎賓・PR機能を集約して建てられたのが、延べ床面積約1.3万㎡の新本館（地上4階、地下1階）である。

建物全体が巨大な箱型の押出し材インゴットの形をしており、力強い。他方、鉄を同定する輝線スペクトルパターンをデザインの隅々まで浸透させ、繊細で美しい。ファサードや内装仕上げのパターンから敷地内横断歩道のパターンまで輝線スペクトルを採用する徹底ぶりだ。

同社のベーシックな製品を、遊び心を込めた想定外の使い方をする事で、個性的な空間を演出することに成功している。主要構造である鋼管では、継ぎ目の溶接痕をわざと見せている。VIP用エントランスを入ると、通常足場材などに用いられるパネルの壁に出迎えられる。応接室に至る廊下は、銀色に輝く印象的な空間だ。



押出し材インゴットのフォルム

天井・壁とも表面処理の異なる2種の下地材を仕上げ材に大胆に用い、ランダムに蛍光灯が配されている。

新日鉄の製品カタログと鉄の輝線スペクトルを片手に、建築デザインの随所に宿る鉄たちを探してみたら丸一日楽しめそうだ。

製鐵業には溶鋳炉の中で煮えたぎる、どちらかといえば荒々しいイメージがある。この建物は、そんなイメージを一新し、鉄のおしゃれな一面を見せてくれる半面、沿岸重工業のパワーで日本が単純に勢いづいた時代が過ぎ去ったことを体現しているかのようだ。（岡部明子）



2種類のLGS素地を積層し、下地材を仕上げ材に転用した通路

（※撮影/小川泰祐）

建築文化賞

環境に配慮した建築物

建築主：日本貨物航空株式会社
設計：新日鉄エンジニアリング株式会社
一級建築士事務所
施工：新日鉄エンジニアリング株式会社
所在地：成田市成田国際空港内

巨大なエコハンガーにおける新たな挑戦

日本貨物航空株式会社ライン整備ハンガー



正面より格納庫内を見る(夕景)

巨大な整備ハンガー内に立つと、初めて体験するその内部空間のスケール(約90m×90m、高さ40m)に圧倒された。その中で整備を待つジャンボ機が精巧な、いとおしい模型のように見えるのも、普段は公の目に触れることのない建築に内包されたジャンボ機の印象として、大変新鮮な体験であった。

この整備施設に適用された環境配慮の取り組みは、朝到着し、夜飛び立つ整備対象飛行機の屋間における整備スケジュールを前提にしている。すなわち、主として昼光利用、自然換気のパッシブな技術(その他は、給湯用太陽熱温水システム、機体洗浄用雨水利用、空調負荷削減用屋上緑化など)と、高効率機器の採用に絞られており、大変明快である。そして、その最大の特徴はポリカーボネートによる軽く透過性能の高い2重パネルを壁面に多用した「ライトウォール」と「トップライト」の併用による

昼光利用の取り組みに他ならない。この結果、昼間は昼光のみによる整備作業が可能となり、設計者の試算ではCO₂排出削減効果30%の過半を占める効果を得ている。

見学時もハンガーの作業環境としてみてほば外部にいるような感覚にとらわれた。そして同時に、屋内であることの静寂な快適性が「風力換気」と「重力換気」の自然換気によって実現しており、内外の意匠的な取り組みにやや不満が残るものの、巨大な整備施設として高く評価すべきである。このように、生産・整備施設であっても、環境負荷の低減とその建築環境の質の向上の両立への試みが求められる、そんな時代が生み出した一つの優れた答えである。(岩村和夫)



エプロン側全景(大扉開放)



格納庫内部:間接光による均質な自然光

建築主：株式会社竹中工務店
 設計：株式会社竹中工務店
 施工：株式会社竹中工務店
 所在地：印西市大塚1-5-1

多義的な環境配慮技術の実証実験棟

竹中技術研究所・耐火実験棟



季節と時の移ろいを映すファサード(南外観)

千葉ニュータウン内に立地する白い技術研究所は、本賞第一回目の平成6年度に景観に配慮した一般建築の部で建築文化賞に輝いた。その後の16年間におよぶ維持管理の状況も出色だが、今回審査の対象となった耐火実験棟は、美しい円形ジオメトリの配置が際立つ技術研究所の一角に建てられた。その特徴である「サステナブルフレーム」を纏った立ち姿は、従来の低層の研究所の雰囲気とはずいぶん異にしている。現段階で第一級の耐火実験施設だが、そこに大手ゼネコンとして近年とみに加速している建築の環境問題に取り組む姿勢を実体化した。

まず、最新の耐火実験装置によって得られる知見は、耐久性やリスクマネジメントを通した建築のサステナビリティに資する技術の開発に貢献する。また、この実験棟自体の中間領域をシステムティックに構成するサステナブルフレームが本施設のサステナブル性を構成する。その考え方自体は、決して新しいものではなく、そこで謳われている12の実証項目にしても、

「パッシブデザイン」の要素として基本的なもの(アクティブなシステムを組み合わされた、太陽光発電、風力発電、緑化外装、環境配慮建築材料、ミスト噴霧、排熱利用に分類)ばかりである。しかし、比較的限定的な効果のものを含めて、その組み合わせや統合化によって、単なる省エネルギーにとどまらない、快適さや美しさにつながる効果の可能性を重視して構成されている。

これは一民間企業の実験棟であるが、実証実験の成果を課題も合わせて、ぜひ広く公開されることを願うものである。(岩村和夫)



鳥瞰写真



環境配慮型の革新的な緑化外壁システム

(撮影／小川泰祐)

建築文化奨励賞

景観上優れた建築物

ワンルームマンションの新しい景観

コルテ松波

コルテ松波は周辺に学校や公園のある閑静な住宅街に位置するワンルームの集合住宅である。以前は企業の社員寮として使用されていたが、一般賃貸にするにあたって改修が行われた。

地域に通じる中庭を介して建つ2棟は、渡り廊下と階段で繋がっている。個を重視する佇まいから、改修を機に2つの仕掛けが用意された。

1つめは、中庭を住戸の延長となるような場所にしたことである。中庭に面したバルコニーの亚克力製手摺は丸型の穴をあけた溝型鋼の手摺に変えた。住人はそこに観葉植物や趣味のものを置き、各々の日常生活が溢れ出すことで自ずと住民の顔が見えるようになった。

2つめは、賃貸しても人気のない1階を共有空間にしたことである。住人はポストルームに立寄り、洗濯の合間に会話するといった交流の場となった。さらに地域に開かれたイベントなど積極的な利用が見られるようになったそうだ。

希薄になりがちな現代の都市生活にあって、これらの試みは住人にも周辺にも集合住宅の新しい景観をもたらしたといえる。そして今後どのような展開があるのか。住人と共に成長するコルテ松波に期待している。（藤本香）



外観全景



中庭にソファアールを出して青空リビング

7

建築文化奨励賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

細かな配慮とゆとりある空間

マザー牧場 まきばトイレ

マザー牧場は、東京から日帰りで訪れることのできる観光牧場の草分けである。創立50周年を迎えるにあたり、施設の更新や拡充が現在進められている。今回の受賞対象は、まきばゲート付近にある新設の大型トイレである。ほぼ同時期につくられた案内所には、救護室やベビー室が完備され、貸出用のベビーカーや車いすも充実している。案内所については竣工時期が応募要件に合致しなかったものの、ゲート付近にある施設全体を、ユニバーサルデザインとして評価できる。

この「まきばトイレ」は、個々人にとって快適に用が足せるだけでなく、家族にとって豊かなトイレタイムをサポートしてくれている。男女分かれて入るトイレでは、出口での待ち合わせが付きものだが、広場に面したベンチでお連れさまをのんびり待つことができる。ベビーカーといっしょに入れるちょっと広めのブースや大型ベッドを備えた多目的トイレなど、小さなお子さん連れや重度の障がい者への配慮もうれしい。

マザー牧場を訪れて得られる「動物との触れ合い」はユニバーサルな楽しみだ。開園当初から、介助付きで車いすの方も園内を回れるように考慮されているという。今回のトイレは、マザー牧場のユニバーサル哲学の現れと解したい。

（岡部明子）

建築主：株式会社マザー牧場
設計：株式会社空間スタジオ
施工：有限会社光進建設
所在地：富津市田倉940-3



外観全景



木をいかした明るい室内※

（※撮影/山田 哲）

建築主：国立大学法人千葉大学
設計：工学部10号棟トイレ改修設計組織
施工：日新建設株式会社
所在地：千葉市稲毛区弥生町1-33

建築文化奨励賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

機能的に使いやすい寸法を身につける

千葉大学工学部10号棟トイレ改修 “スケールを身につける”1:1トイレ

千葉大学構内・工学部校舎のトイレの改修事例である。設計を学ぶ建築学科の教育の一環として、学生のキャンパス環境に対する意識、ユニバーサルデザインに対する考え方を高める目的でコンペが実施され、その最優秀案に基づいて、実施設計・施工まで学生（建築コースに在籍する女子学生）が参加して行われたという、ユニークな事例である。

古い鉄筋コンクリート造校舎に出現した、明るく、ゆったりとしたトイレ空間。入口周りのデザインされたサインも心地よい。このトイレの最も大きな特徴は、壁・床・扉等いたるところに表示された寸法線である。日常生活動作と寸法との関係を常に意識し、スケール感を身につける仕掛けであり、学習の場としてよく考えられている。もう一步、標準的なものだけではなく、高齢の人、障害を持った人に配慮した寸法（最小・最大・可視範囲等）を学ぶ工夫、特に多目的トイレに必要な情報を盛り込む工夫が欲しいところ。

大学という特殊条件の中の事例であるが、若者たちが自身の学ぶ環境を調査、研究し、機能だけではなく、美しい快適な環境をつくること、また明確なコンセプトを挙げ、それを実現していることを高く評価した。（夏目幸子）



個室内の寸法
デザイン



女子トイレ
パウダーコーナー

（撮影/宗方 淳）

選考の基準

1. 千葉県内において完成（増築、改築、リフォームを含む）し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物（群）でこの表彰の趣旨に沿っているもの。
2. 機能性やデザインなど総合的にみて優れた建築物（群）であり次のいずれかに該当するもの。
 - ①地域の特性や周辺環境に十分配慮され、建築物（群）と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
 - ②概ね3年以上の創意工夫に富んだ継続的な景観づくり活動により、上記①の維持・向上が実現できているもの。
 - ③だれもが、安全に、安心して、そして快適に利用できるよう配慮され、日常の生活や社会への参加が容易にできるような環境整備がされているもの。
 - ④環境と共生する優れた社会資産を形成するために、エネルギーや資源の高度な有効利用を図ったり、自然を取り入れた建築の工夫や、地域の生態環境や防災に寄与する取り組みなどによって地域環境と親和させるなど、人と環境に対して、健康快適な建築環境の向上について配慮されているもの。
3. 建築基準法などの諸法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。

千葉県建築文化賞選考委員会

委員長 北原 理雄：千葉大学大学院教授

副委員長 岩村 和夫：東京都市大学大学院教授

委員 青柳 英俊：社団法人千葉県建築士会会長

委員 岡部 明子：千葉大学大学院准教授

委員 夏目 幸子：建築家・NPO 住まい・まち研究会理事長

委員 藤本 香：建築士・千葉大学非常勤講師

【敬称略 委員は五十音順】

第17回千葉県建築文化賞に御応募いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。応募総数71点の中から4点が千葉県建築文化賞、3点が千葉県建築文化奨励賞に選定されましたが、応募作品はすべて優れた特徴をもった質の高い作品でした。

作品に携われた皆様に敬意を表し、今後ますますの御活躍を期待しております。

（千葉県建築文化賞選考委員会事務局）

千葉県建築文化賞の実績 (応募点数・受賞作品数)一覧

回数	年度	応募総数	建 築 文 化 賞				建築文化 奨励賞
			景観上優れた	ユニバーサル デザインに配慮	環境に配慮	計	
1	H6	192	3	3	—	6	—
2	H7	73	3	3	—	6	—
3	H8	83	3	2	—	5	4
4	H9	87	4	1	—	5	5
5	H10	106	2	0	2	4	5
6	H11	101	2	2	2	6	3
7	H12	63	3	1	2	6	4
8	H13	88	2	2	2	6	2
9	H14	71	2	1	2	5	4
10	H15	79	3	2	0	5	4
11	H16	63	1	2	1	4	3
12	H17	92	3	1	2	6	1
13	H18	71	3	0	1	4	4
14	H19	53	1	1	1	3	5
15	H20	57	3	1	1	5	1
16	H21	68	2	1	1	4	4
17	H22	71	2	0	2	4	3
1～17	計	1,418	42	23	19	84	52

※1「建築文化奨励賞」は、第3回に創設。

※2「環境に配慮した建築物の部」は、第5回に創設。

※3「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」は、第12回に創設。(第11回までは、「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」)

千葉県建築文化賞は、多くの皆様の協力に支えられ、回を重ねてまいりました。

その間、県下の広い地域にわたり、84の建築物が受賞され、それぞれの地域に根付いています。

第18回の作品募集は、平成23年夏頃行う予定です。皆様方の御応募をお待ちしております。

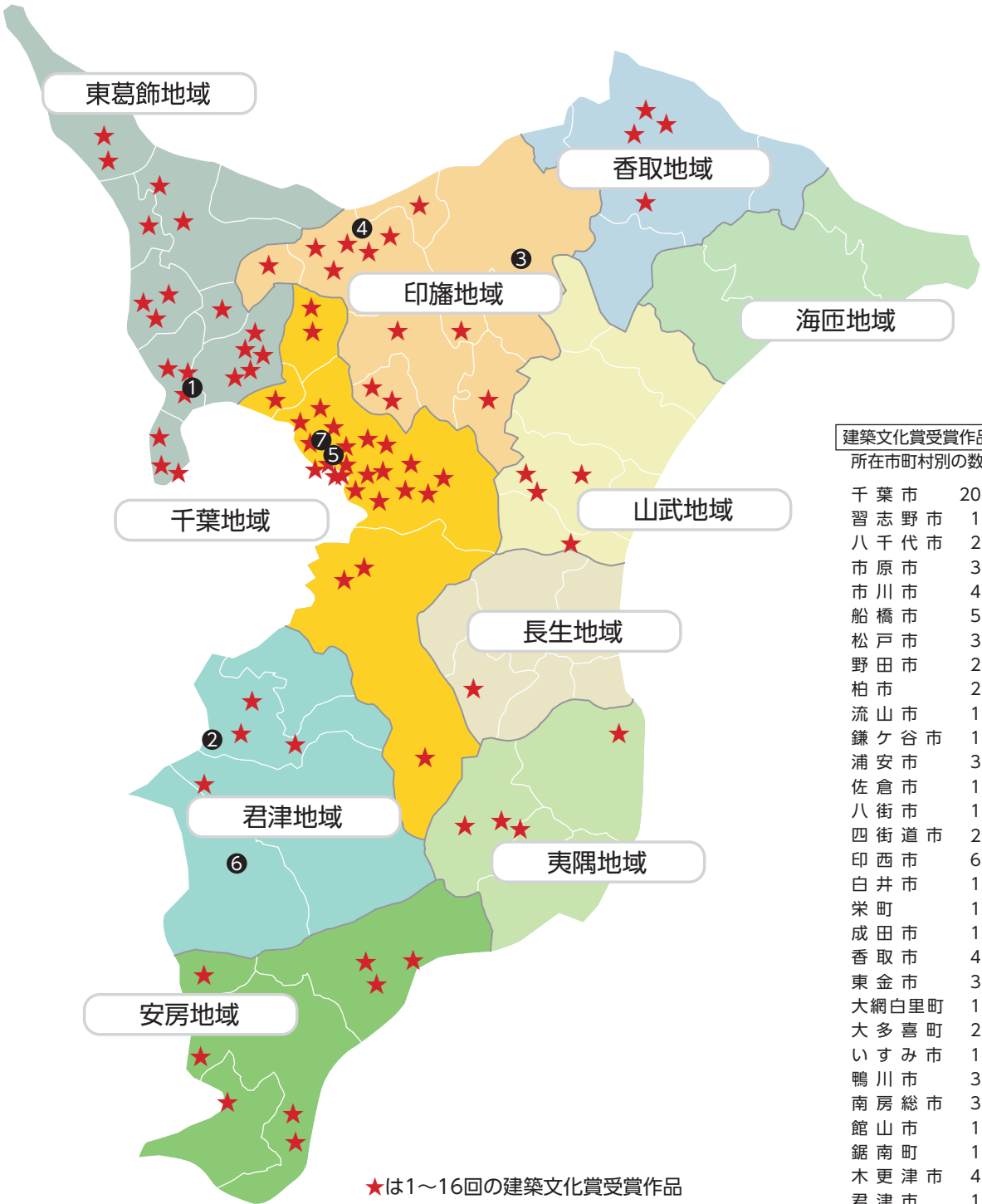
受賞作品の位置

第17回千葉県建築文化賞

- ① 東光電気工事株式会社 市川センター
- ② 新日本製鐵君津製鐵所本館
- ③ 日本貨物航空(株)ライン整備ハンガー
- ④ 竹中技術研究所・耐火実験棟

第17回千葉県建築文化奨励賞

- ⑤ コルテ松波
- ⑥ マザー牧場 まきばトイレ
- ⑦ 千葉大学工学部10号棟トイレ改修
“スケールを身につける”1:1トイレ



建築文化賞受賞作品

所在市町村別の数

千葉市	20
習志野市	1
八千代市	2
市原市	3
市川市	4
船橋市	5
松戸市	3
野田市	2
柏市	2
流山市	1
鎌ケ谷市	1
浦安市	3
佐倉市	1
八街市	1
四街道市	2
印西市	6
白井市	1
栄町	1
成田市	1
香取市	4
東金市	3
大網白里町	1
大多喜町	2
いすみ市	1
鴨川市	3
南房総市	3
館山市	1
鋸南町	1
木更津市	4
君津市	1

計 84



千葉県マスコットキャラクター
チーバくん

お問い合わせ先

千葉県県土整備部建築指導課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1
TEL.043(223)3181 FAX.043(225)0913

社団法人 千葉県建築士会

〒260-0013 千葉市中央区中央4-8-5
TEL.043(202)2100 FAX.043(202)2101